

門司港レトロ観光まちづくりプラン



平成20年7月
北九州市

はじめに

北九州市では、門司港レトロ地区を、旧門司三井倶楽部をはじめとした大正ロマンあふれる歴史的建造物や関門海峡の自然景観など魅力ある資源を生かした新しい都市型観光拠点と位置づけ、昭和63年から各種の整備事業を進めてきました。

その結果、平成15年に255万人の観光客が訪れるなど、本市を代表する観光地へと成長したものの、近年は観光客数が伸び悩んでいる状況にあります。

今後、門司港レトロを本市のビジターズインダストリー（賑わいを創出する産業）の牽引役として、一層魅力ある観光地に飛躍させるためには、集客・受入体制をさらに充実させるとともに、新たな観光拠点の整備等に取り組み、滞在型の観光地づくりを進めていくことが不可欠です。

そのため、本市としては、門司港レトロの将来展望を見据えた「門司港レトロ観光まちづくりプラン」の策定に取り組むこととしました。

この「門司港レトロ観光まちづくりプラン」では、これまでに整備した既存ストックを最大限に活用した施策を展開するとともに、「おもてなし」などソフト事業の充実・強化や、民間事業者の創意工夫やノウハウの積極的な活用など、新たな視点を加えています。

また、回遊性の向上や滞在の長時間化など観光地・門司港レトロが直面する5つの課題に対し、15の戦略に基づき、80を超える施策を盛り込んでいます。このプランを総合的・計画的に実施することにより、今後おおむね10年間に「観光客数の50%アップ」「1人あたりの観光消費額20%アップ」「レトロ中心地区の居住人口の10%アップ」などを目指してまいります。

当然のことながら、観光や地域の振興に対しては、市民や事業者の皆様と一体となって取り組む必要があります。門司港レトロが、観光客をはじめとした多くの方々に愛され、「全国を代表する観光地」となるように、市としても最大限の努力をしてまいりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成20年7月

北九州市長 北橋健治

目 次

門司港レトロ地区の現状と課題の整理

1	これまでの経緯	1
2	長期計画策定の目的	2
3	計画策定の範囲	3
4	門司港レトロ地区の現状	4
5	課題の整理	12

検討の前提

1	計画策定に向けての視点	13
2	来訪者（観光客）・住民のタイプ	13
3	門司港レトロ地区の振興フロー	14

門司港レトロ地区の活性化の方向性と目標数値

1	門司港レトロ地区の活性化の方向性	15
2	目標数値	16

施策の展開

1	戦略	17
2	具体的な施策	
(1)	観光客の増加策	
	観光施設等の魅力向上	18
	集客イベントの充実	19
	観光プロモーションの強化	20
	アジアをはじめとした海外からの観光客の集客・受入体制の整備	21
(2)	回遊性の向上・滞在時間の長時間化	
	回遊環境・二次交通の充実	22
	関門連携の強化	26
(3)	観光消費額の増加策	
	飲食施設の充実	27
	物販施設の充実	28
	宿泊施設の充実	29
(4)	地域資源の発掘・伝承	
	歴史的建造物の保存・活用	30
	魅力ある景観づくり	31
	地域資源の伝承・育成	32
(5)	観光と暮らしの活性化	
	栄町商店街周辺の活性化	34
	アートや文化を活かしたまちづくり	35
	快適な住環境の充実	36
	エリア別の事業展開	39
	施策の推進体制及び取り組み期間	43